

日本人工臓器学会大会萌芽研究ポスターセッション

**荒尾さん(臨床検査
領域2年) 2年連続優秀賞**

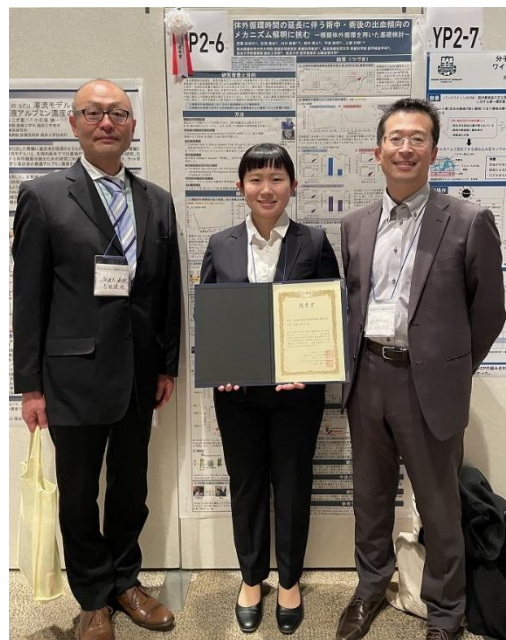
産学共同の新たな取り組み高評価

第61回日本人工臓器学会大会が9日(木)～11日(土)、ホテルイースト21東京(東京都)で開催され、萌芽研究ポスターセッションで大学院臨床検査領域2年の荒尾ほほみさんが、昨年に続き優秀賞を受賞しました。

荒尾さんは昨年大会で、体外式膜型人工肺(ECMO)内に生じる血栓の原因に迫る研究で高い評価を得ました。今回の「体外循環時間の延長に伴う術中・術後の出血傾向のメカニズム解明に挑む一模擬体外循環を用いた基礎検討」と題した研究は、産学共同研究として今年5月よりスタートしたものです。心臓手術等の体外循環に伴って生じる血小板数減少と血小板膜表面からある特定の糖蛋白質が切断され、その結果として粘着能が低下することが、術中・術後の出血傾向の原因である可能性を見出しました。

荒尾さんは「2年連続受賞という目標も達成でき、支えてくださった先生方、企業の方々に少しですが、恩返しできて嬉しく思います」と喜びを語っていました。

(入試・広報課)



2年連続で優秀賞に輝いた荒尾さん(中央)。左は共同研究者の古垣達也氏(筑波大学附属病院)、右は上妻行則准教授

学びの集大成 専門の枠を超え症例検討

チーム医療演習発表会

学部4年次生の必修科目「チーム医療演習」の集大成となる発表会が9日(木)、1300L講義室と50周年記念館の2会場で実施され、総勢340人が30のグループに分かれ、活動の成果を発表しました。

チーム医療演習は、専門分野の異なる学生たちがグループ(11～12人)を組み、症例検討を行うものです。症例検討を通して各メンバーの立場や違いを理解し、チーム医療を行う上で必要な相互理解を学ぶことが目的。学生たちは、10月12日(木)から5週に渡って取り組んできました。その間、あらかじめ提示された模擬患者の基礎疾患や容態を分析し、個人レポート作成のほか、グループごとの興味ある点の抽出と発表課題の検討などを行ってきました。発表では、各グループが発表8分、質疑応答5分の計13分の持ち時間の中で介入計画を発表しました。

看護学科の学生は「医学検査学科など他学科の内容を聴くことができてためになりました」と語りました。リハビリテーション学科生活機能療法学専攻の学生は「いろんな視点から(症例が)見られてよかったです。特に看護の視点が参考になりました」と振り返り、「(学科横断のメンバーで)友好が持てたことが収穫です」と語りました。

担当した山田和慶教授は「多職種からの多角的な視点で、学生たちがお互いに学びあい、症例の理解を深めている様子が、レポートを通じて感じられました。最終日の発表は、どのチームも完成度が高く、また興味深いものでした。学生たちの頼もしい成長を目の当たりにした演習でした」と評価していました。(入試・広報課)



写真上は、グループ発表を行う学生たち。同下は、真剣な表情で発表を聞く学生たち

メダルラッシュ 選手の活躍下支え

久保下 亮 准教授 (リハビリテーション学科理学療法専攻)

活動
報告

中国・杭州で開催された「杭州2022アジアパラリンピック競技大会」(10月22~28日)車いすテニス競技の日本代表に、トレーナーとして帯同しました。

今大会では、2人のトレーナーが代表選手8人のウォーミングアップやクーリングダウン、試合・練習前後のコンディショニング調整をサポートしました。車いすテニスは個人競技なので、選手のスケジュールを管理し、もう一人のトレーナーと適宜役割を調整しながら滞りなく選手サポートをすることに心を砕きました。

結果は、男子シングルスで小田凱人選手が日本人対決を制して初優勝。女子シングルスで上地結衣選手、クアードクラスで菅野浩二選手が金メダルに輝くなど、日本勢の活躍が目立つ大会となりました。

今大会は、トレーナーとして選手のコンディションをベストな状態に保つために、多方面からサポートする必要性を再確認できた貴重な機会にもなりました。今大会で得られた経験値を、パリ2024パラリンピック競技大会、名古屋2026アジアパラリンピッ

ク競技大会にも生かし、各選手が最高のパフォーマンスを発揮できるようにサポートしていきたいと思っています。



クアードクラスのシングルス決勝を控えた菅野選手(手前)の肩関節の動きを調整する久保下准教授

地域の課題 みんなで共有



地域づくり集談会で本学の取り組みを報告する竹屋学長

北区「地域づくり集談会」に参加

熊本市北区が抱える課題を市民や行政が共有し、一体となって解決策を模索する第1回北区「地域づくり集談会」が10日(金)、植木文化センターで開催され、区内で活躍するボランティア団体や企業・施設による活動報告や、参加市民を交えた全体討論を通じ理解を深めました。

「集談会」は、北区に住む有志でつくる「“北区”地域の課題解決チーム」が初めて企画したものです。活動報告には14団体が参加。各代表が6分間の持ち時間で、日頃の取り組みや活動を通じて見えてきた地域の課題などを紹介しました。本学からは竹屋元裕学長が、ボランティアサークルLoversの取り組みやことばの相談室の活動、学友会活動などを報告しました。

引き続き行われた全体討議では、会場を訪れた約100人の市民も参加し、活発な意見交換が行われました。(入試・広報課)

腰痛予防・改善にリラックス呼吸法、からだほぐし体操…

衛生委員会が主催する「こころとからだの健康づくり研修会」が1日(水)、1303M講義室であり、熊本機能病院の運動指導士、山下亮氏が「デスクワークしながらできる簡単腰痛予防体操」と題して、教職員17人を前に講習を行いました。

山下氏は呼吸が浅いと膝や腰の痛みを感じやすく、精神的・身体的にも元気が出にくくなるとして、横隔膜をリラックスさせる呼吸法を指導。また、腰痛予防・改善のための「からだほぐし体操」や筋力トレーニングを紹介し、「毎

衛生委員会が研修会

日継続することは大変ですが、まずは1カ月、リズムを刻みながらすると気持ちも上がって効果的です」と継続するコツも伝授しました。

受講者からは「特に肩甲骨周りは、少しのストレッチでもほぐれたことを実感できた」、「呼吸法やストレッチの他に、前日や1週間の良かったことを朝から3つ書くと、活動量がアップし、その日の活動効率が上がるというお話が印象に残りました」などのコメントが寄せられました。(衛生委員会)



「共に成長」の喜びかみしめ 4年生ピア・サポーター感謝の会

「4年生ピア・サポーター感謝の会」が7日（火）、1204・1205会議室で行われました。4年生14人に感謝状と記念品が贈呈され、学生相談・修学サポートセンターの檜原真二センター長が「ピア・サポート活動に助けられた学生は多くいますし、皆さんも共に成長できたと思います。国家試験も頑張ってください」とねぎらいました。

4年生代表の黒木愛加さん（看護学科）が後輩に向け「オープンキャンパス等で相談を受けることにやりがいを感じました。相談者と同じ目線に立って耳を傾ける存在

でいてください」とメッセージを送り、後輩を代表して永田里奈さん（医学検査学科2年）、長莉穂さん（同）が「先輩方の振る舞いを見てたくさん学びました。次は私たちがお手本になりたいです」と感謝の言葉を述べました。

最後に、竹屋元裕学長が「困っている人が何をしてほしいかを理解することはとても大切です。この経験を活かして、思いやりのある医療人になってください」と激励しました。

（学生相談・修学サポートセンター）

銀杏アラカルト

■イベント会場で健康チェック 4日（土）～5日（日）、フードパル熊本で開催された「フードパルフェスタ2023」に、今年も本学が参加しました。本学は健康チェックコーナーを担当し、リハビリテーション学科の教員と学生が体成分・骨密度・握力・下肢筋力（椅子からの立ち上がり）・口腔機能（嚥下、発音の回数）の測定を行いました。2日間で208人が訪れ、測定後のアドバイスを熱心に聞いていました。中には「毎年楽しみにしている」、「楽しかった」などと声をかけてくれる来訪者もいました。当日は天候にも恵まれ、フリーマーケットやそば打ち体験コーナーなどの催しにたくさんの人たちが訪れていました。（地域連携委員会事務局）



来訪者の嚥下・発音機能を測定する学生たち

■助産別科、大学院で推薦入試 助産別科推薦入試と大学院推薦選抜・社会人選抜（Ⅰ期）が4日（土）に実施され、多くの受験者が筆記試験と面接試験に臨みました。当日は天候にも恵まれ、試験は滞りなく終了しました。合格発表は助産別科推薦入試が10日（金）、大学院推

薦選抜・社会人選抜（Ⅰ期）は17日（金）に行われました。助産別科一般入試は12月2日（土）、大学院一般選抜・社会人選抜（Ⅱ期）は来年2月24日（土）に実施されます。

（入試・広報課）